

令和５年度 入学式 告辞

入学生みなさん、ようこそ石川高専へ。また、ご家族関係者の皆様、本日は誠にありがとうございます。

今日ここに令和５年度の石川工業高等専門学校入学式を挙行できますことは、私ども教職員及び在校生一同の大きな喜びです。ご臨席の皆様方に対し心から御礼申し上げます。

本年度は、第１学年に入学する２１２名、編入学する５名、うち留学生４名、専攻科に入学する３０名、合計２４７名の入学生を迎えることになりました。

石川高専は、我が国の発展のために不可欠である、産業技術と社会を支える実践的創造的な技術者を養成するための、国が設置する全５１校の国立高専の一つです。昭和４０年に自然豊かな石川県津幡町のこの地に設立されて以来、９０００人を超える卒業生の先輩方は、産業や行政、あるいは教育研究など様々な世界で活躍され、科学技術創造立国を担ってこられました。

さてここで、入学生の皆さん。冒頭、私は、皆さんにはおめでとうとは言いませんでした。気付かれたでしょうか。

高専は本科の５年間で、高等学校から大学学部の７年間に匹敵する教育を行いますが、そのカリキュラムは社会の信用を勝ち得た数多くの卒業生の教育実践に裏打ちされたものです。教職員が皆さんをしっかり支え導くことはもちろんですが、同じ日に入学を迎えた多くの仲間が助け合い切磋琢磨してくれます。上級生たちも学業や課外活動を通じて模範となったり助けとなったりします。地元石川県の企業や自治体などの多くの方々も、皆さんの志と未来に期待して、実践や研究の場や機会、あるいは貴重な資金の提供などで学びを支えてくれます。

また国の政策レベルでも、皆さんがこれからの社会変革をリードする人材になることを期待して、例えば、従来の専門分野の知識・技術と世界標準のデジタルマインド・スキルを併せ持った産業界を牽引するＤＸ人材を育成する事業、また、高専生の高い技術力、社会貢献へのモチベーション、そして自由な発想力を実践的なチャレンジに繋げるスタートアップ教育の事業などなど、様々な支援策が講じられます。

本校に入学するということは、技術者として社会を担うという皆さんの未来に大きな期待が寄せられ、その実現を目指す皆さんの努力には様々な方々からの多大な支えや助けがある、そういう環境を得るということです。専攻科入学生の皆さんならその素晴らしさを実感し、その活かし方も十分に考えておられることでしょう。

そういう意味で申し上げます。入学生の皆さん、おめでとう。

さてここで皆さんにお願いしておきたいことがあります。実践的創造的な技術者への期待というのは、地元石川県そして我が国の人々の期待です。

少子高齢化の進展などの社会変化に相まって、技術で社会の期待に応えるということの意味もますます複雑なものとなっています。例えばＳＤＧｓとひとまとめに呼ばれる諸課

題もその内容は多岐にわたり、状況に応じて様々な次元の対応が必要です。あるいはS o c i e t y 5 . 0 で社会のあらゆる場面を便利に豊かにすることを目指すなら、人へのやさしさを兼ね備えることも必須です。革新的技術も人々に安心して善いものと受け止めてもらえなければ、社会実装に繋げることは困難です。

みなさんには、これからの時代の技術者として、専門とする領域だけでなく他の技術領域についても知見を深めることは当然、社会制度の意義なども理解し、究極的には人の心や願いにも想いを致して、本当に喜ばれる技術を創造し社会実装していく技術者になってほしいのです。そのために、本校で技術者としての専門知識・技術を学ぶとともに、課外活動なども含め様々な活動、体験、試練を通じて、人としての感性を育て、他者の心や願いを理解できるよう、心がけてください。

さて、我が国の高専の制度は、社会を担う技術者養成の仕組みとして諸外国からも関心を寄せられています。今年もマレーシア、マリ、モンゴルから計4人が編入生として留学してくれました。言葉も環境も違う日本で勉強することは大変なことだと思いますが、早く多くの友人を作り津幡の生活にもなじんで、思い切り日本の生活を楽しんでください。将来は、皆さんの国と日本の技術交流、文化交流の懸け橋となってくれることを希望いたします。

専攻科に進学した30名の皆さん、これからの2年間、本科で培った基礎の上に、より深い専門性と複数の専門領域にまたがる複合的視野を学び、将来、人間性豊かなイノベーションを実現していく総合技術者として活躍できるよう、さらに自らを鍛えてください。

世界が翻弄されてきたコロナ禍も、ついに対策や規制が緩和される段階になりました。苦しい、悲しい経験をされた方も多いでしょうし、以前の生活に単純に戻るわけでもありませんが、可能なペースで取り戻していきましょう。また、せめて、この間に普及したリモートの手法等のメリットをプラスアルファとして活かすことも考えてください。

最後になりましたが、どうか本日の感激を忘れず、みなさん一人一人の夢の実現のため、自分の可能性を信じて、志を高く持って、高専生活を過ごしていただきたいと思います。

また、ご家族関係者の皆様方に改めてお祝いを申し上げますとともに、家庭と学校の密接な連絡を保ち、本校への積極的なご支援とご助言をお願い申し上げます。

重ねて、本日入学される皆さんをお祝いし、校長告示といたします。

令和5年4月5日

石川工業高等専門学校長 嶋 倉 剛